



2022年3月期第3四半期決算説明資料



2022年1月27日

メタウォーター株式会社

<セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業):国内EPC事業、海外事業
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業(略語:SS事業):国内O&M事業、国内PPP事業
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・調達・建設
O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative:公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

I 2022年3月期第3四半期決算ハイライト

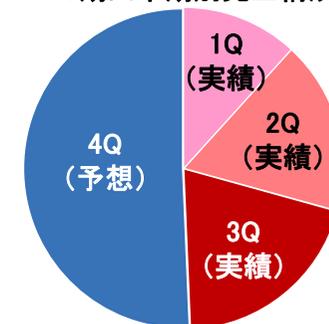
II 2022年3月期第3四半期決算概要

I 2022年3月期第3四半期決算ハイライト

II 2022年3月期第3四半期決算概要

'22/3期3Q 決算ハイライト（連結）

'22/3期四半期別売上構成



* 受注高

PPPが好調に推移したほか海外子会社の連結影響などにより**前期実績を上回る**。

(参考)受注残高：'21/3期3Q末 1,932億円 ⇒ '22/3期3Q末 2,250億円(+318億円)

* 売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上、利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年3Q累計の売上高は年間の40%程度。(当3Q累計の売上高は例年の水準を若干上回る)

当3Qは、海外子会社の連結影響、O&M事業の好調などにより**増収**。前3Qに退職給付信託株式売却による未認識数理計算上の差異(貸方差異)の一括償却に伴う原価・販売管理費の戻し入れ影響(18億円)などがあり、当3Qは**減益**。

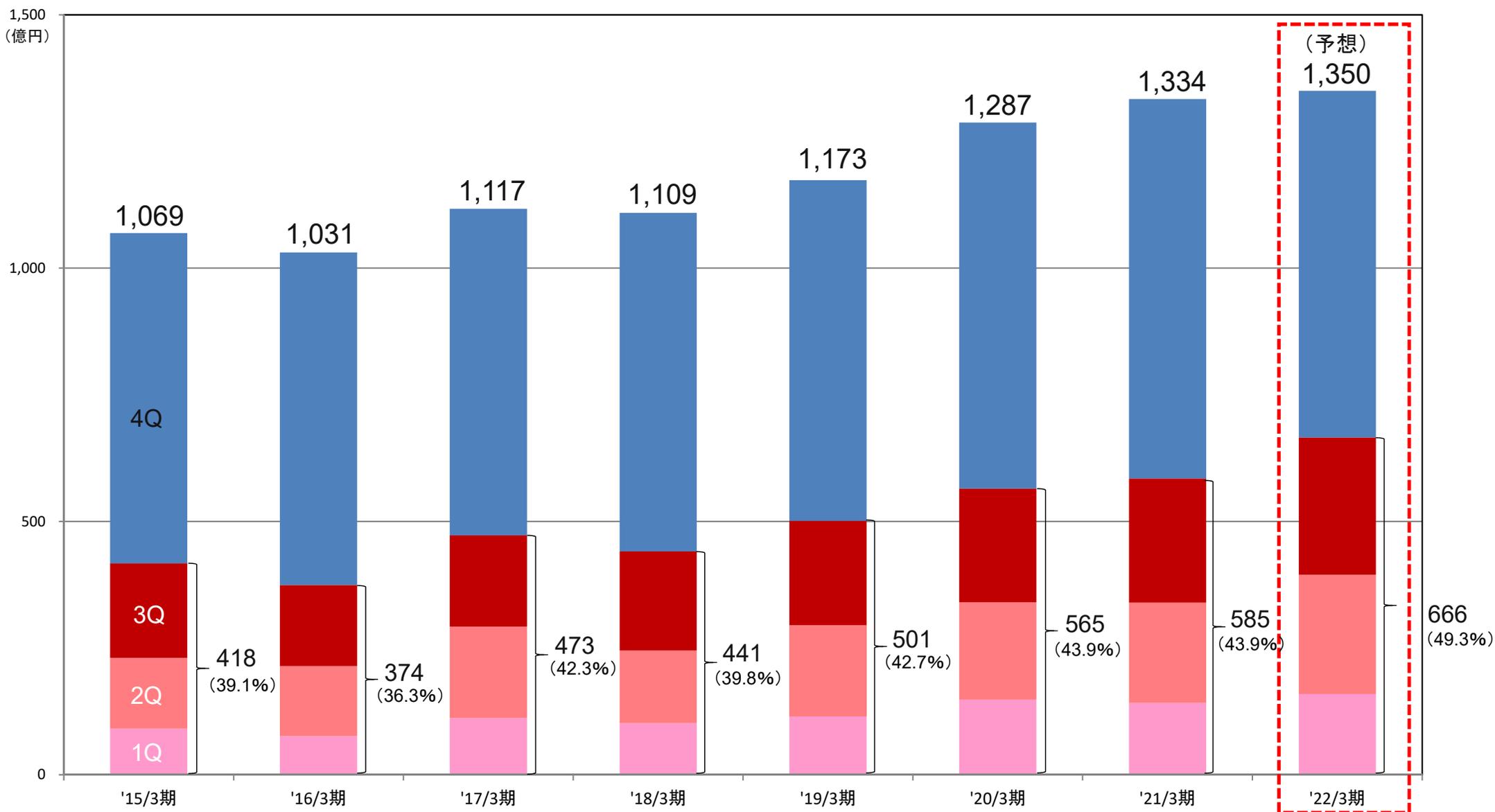
(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり配当金(円)
'22/3期3Q累計 実績	1,223	666	-26	-24	-18	第2四半期末 20
	前期比: +92 +8.2%	前期比: +81 +13.8%	前期比: ▲16	前期比: ▲11	前期比: ▲7	
'21/3期3Q累計 実績	1,131	585	-11	-12	-11	(株式分割前) 40
'20/3期3Q累計 実績	1,027	565	-35	-35	-26	31
'22/3期 予想 (2021年10月27日付)	1,350	1,350	75	74	54	第2四半期末 20
	前期比: ▲15.2%	前期比: +1.2%	前期比: ▲31.0%	前期比: ▲33.1%	前期比: ▲17.5%	期末 20

'22/3期3Q連結会計(累計)期間の期首より「収益認識に関する会計基準」などを適用。これにより、当3Qの売上高は63億円増加し、売上原価は53億円増加し、営業損失、経常損失、税金等調整前四半期純損失はそれぞれ10億円減少。また利益剰余金の当期首残高は2億円増加しています。

'22/3期3Q 売上高推移（連結）

例年3Q累計の売上高は年間の40%前後。当3Q累計は例年の水準を若干上回る進捗。



- * 前中期経営計画で開発が完了した「オゾン・促進酸化処理(AOP)技術」が水道用、産業用で各々受注(10月)

※ 詳細はP9

水道用:茨城県 霞ヶ浦浄水場向け オゾンAOP高度浄水処理システム

産業用:NAGASEグループ ナガセケムテックス株式会社向け オゾンAOP設備

- * 新市場区分における「プライム市場」を選択し、東京証券取引所に申請することを決議(10月)
(参考:2022年1月11日付で東京証券取引所より結果公表、4月より「プライム市場」に区分予定)

- * 自己株式 4,000,000株を消却(11月)

- * 岩手県大船渡市で魚と植物を同時に育てる循環型農業「アクアポニックス」事業を開始(11月) ※ 詳細はP10

- * 「宮城県上工下水一体官民連携運営事業」における実施契約を締結(12月) ※ 詳細はP11

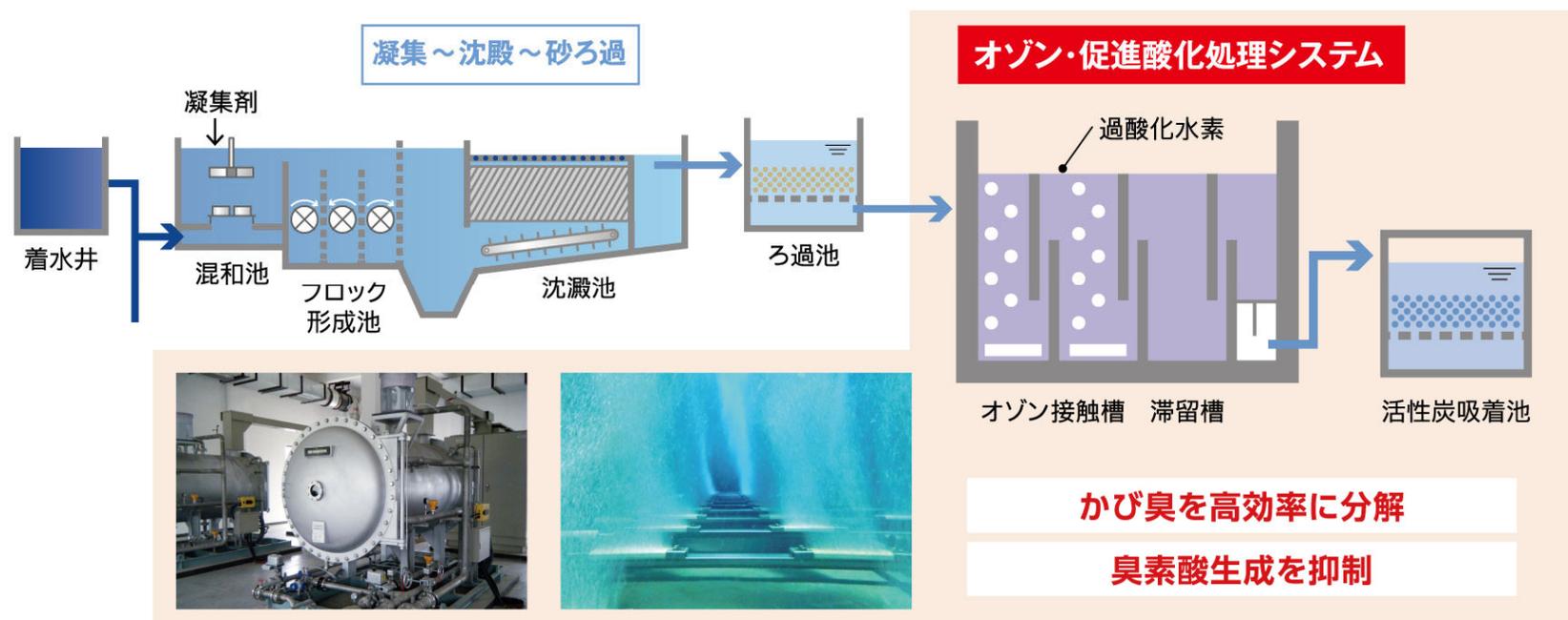
- * 「第15回日中省エネルギー・環境総合フォーラム」に参加(12月)

オゾン・促進酸化処理 (AOP) 技術

近年の気候変動の影響により、水道水源のかび臭に関して、高濃度化、発生時期の長期化、低水温期での発生が報告されている中、かび臭に対する新たな解決手段として開発。

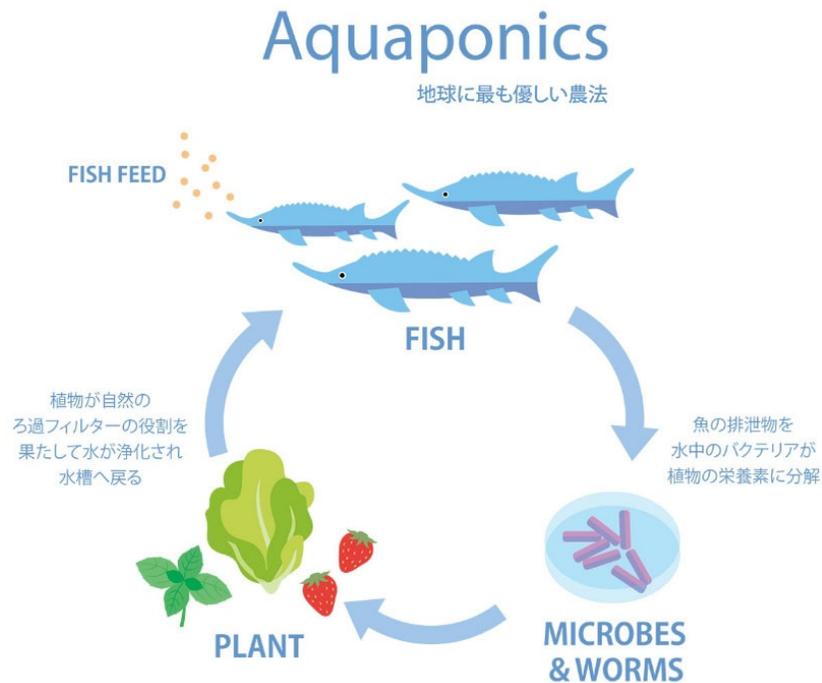
オゾン処理に過酸化水素を組み合わせた処理技術で、オゾンと過酸化水素の適切な注入制御により、高濃度のかび臭の分解、低水温期の処理効率維持、副生成物である臭素酸生成の抑制、後段の活性炭への負荷軽減を実現。

一般的な浄水処理にオゾン・促進酸化処理システムを付加したプロセス



アクアポニックス

上下水道施設の未利用地の有効利用を含めた新たな付加価値の提案として、「株式会社テツゲンメタウォーターアクアアグリ」を設立し、2021年11月から岩手県大船渡市で魚と植物を同時に育てる循環型農業「アクアポニックス」事業を開始。



「アクアポニックス」について

養殖する魚の排泄物を肥料にして植物を育てる新しい農業の手法。水で行う有機栽培ともいわれ、農薬や化学肥料を使わないだけでなく、水も捨てないため環境負荷を最小限に留めて養殖と農業を行うもの。



アクアポニックスプラントの上棟式

宮城県上工下水一体官民連携運営事業

2021年12月6日、当社を代表企業とする特別目的会社「株式会社みずむすびマネジメントみやぎ」が、宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)において実施契約を締結。



運営権者および構成企業による村井宮城県知事表敬訪問

■対象事業

宮城県が運営する、
水道用水供給事業(2事業)
工業用水道事業(3事業)
流域下水道事業(4事業)



■業務範囲

1. 義務事業
 - ・経営に関する業務
 - ・管路を除く施設の維持管理及び改築に係る業務
 - ・用地及び施設等の保安等に係る業務
 - ・土地、建築物及び工作物等貸付業務
2. 付帯事業
3. 任意事業

■事業期間

2022年4月1日から20年間

I 2022年3月期第3四半期決算ハイライト

II 2022年3月期第3四半期決算概要

Ⅱ 2022年3月期第3四半期決算概要

1 連結損益計算書

2 セグメント別概況

3 連結貸借対照表

4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書

(億円)

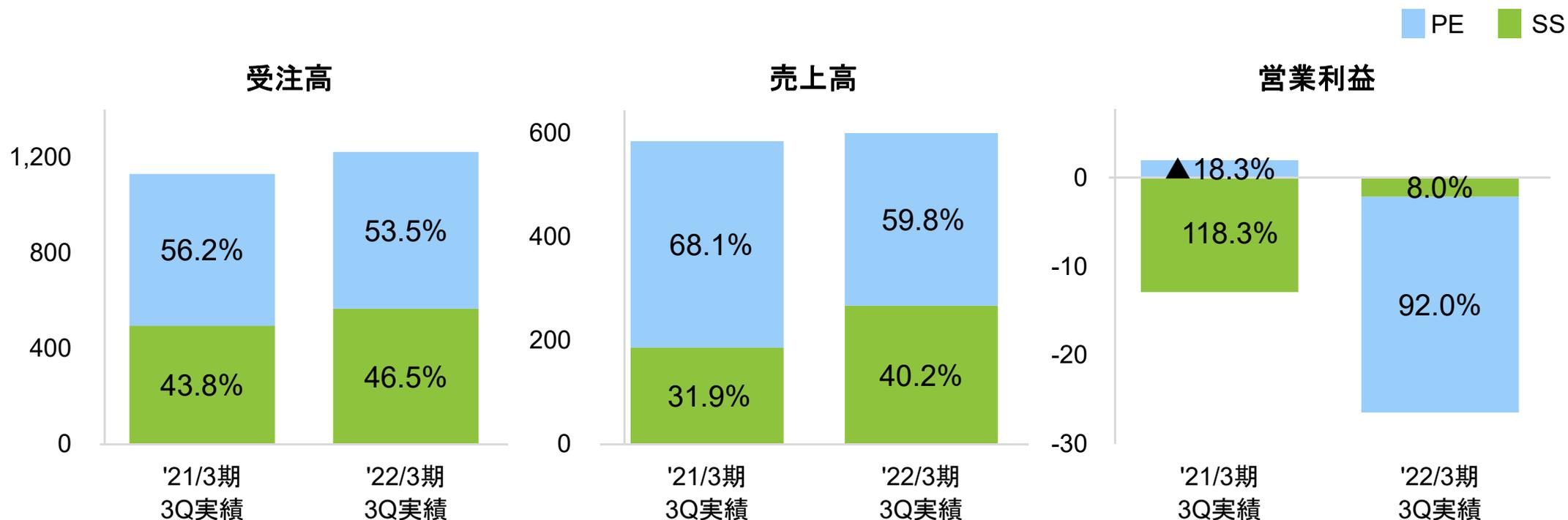
	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増 減
売 上 高	585	666	+81
営 業 利 益	-11	-26	▲16
(営 業 利 益 率)	-1.9%	-4.0%	▲2.1%
経 常 利 益	-12	-24	▲11
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-11	-18	▲7

* 10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

セグメント別概況（連結）

（億円）

	受注高			売上高			営業利益		
	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増減	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増減	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	635	655	+20	398	398	▲0	2	-24	▲26
サービスソリューション事業	496	568	+72	187	268	+81	-13	-2	+11
合計	1,131	1,223	+92	585	666	+81	-11	-26	▲16



セグメント別概況（連結）

（億円）

	受注高			売上高			営業利益		
	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増 減	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増 減	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増 減
プラントエンジニアリング事業	635	655	+20	398	398	▲0	2 (-8)*	-24 (-24)*	▲26 (▲16)*
サービスソリューション事業	496	568	+72	187	268	+81	-13 (-21)*	-2 (-2)*	+11 (+18)*
合計	1,131	1,223	+92	585	666	+81	-11 (-29)*	-26 (-26)*	▲16 (+2)*

プラントエンジニアリング事業

【受注高・受注残高】

受注高は、海外子会社の連結影響により前期を上回った。

受注残高は、前期を225億円上回った。（'21/3期3Q末 1,022億円 ⇒ '22/3期3Q末 1,247億円）

【売上高・営業利益】

・EPC事業は、売上高および営業利益ともに前期を下回った。

・海外事業は、Wigen Companies Inc.およびRood Wit Blauw Water B.V.を連結したことなどにより、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

サービスソリューション事業

【受注高・受注残高】

受注高は、PPP事業が好調に推移し前期を上回った。

受注残高は、前期を93億円上回った。（'21/3期3Q末 910億円 ⇒ '22/3期3Q末 1,003億円）

【売上高・営業利益】

・O&M事業は、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

・PPP事業は、売上高および営業利益ともに前期を下回った。

*'21/3期に実施した退職給付信託株式売却による未認識数理計算上の差異（貸方差異）の一括償却影響額を除いた営業利益

連結貸借対照表

(億円)

	'21/3期 期末実績	'22/3期 3Q末実績	増 減
現金・預金	188	211	+23
売上債権・契約資産	784	441	▲343
棚卸資産	90	180	+90
その他	31	55	+24
流動資産計	1,093	887	▲205
有形固定資産	43	43	+0
無形固定資産	84	92	+8
繰延税金資産	27	26	▲1
その他	66	65	▲1
固定資産計	219	226	+6
総資産計	1,312	1,113	▲199

	'21/3期 期末実績	'22/3期 3Q末実績	増 減
買入債務	363	201	▲162
短期借入金 ^{*1} ₍₉₎	14	₍₉₎ 16	+2
前受金・契約負債	127	156	+29
その他	122	74	▲48
流動負債計	626	447	▲179
長期借入金 ^{*2} ₍₉₀₎	103	₍₈₂₎ 92	▲11
その他	49	56	+7
固定負債計	152	148	▲4
負債計	778	595	▲183
純資産計	534	518	▲16
負債・純資産合計	1,312	1,113	▲199

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	'21/3期 3Q実績	'22/3期 3Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	129	180	+52
営業キャッシュ・フロー	99	66	▲33
投資キャッシュ・フロー	-46	-16	+29
フリー・キャッシュ・フロー	53	50	▲4
財務キャッシュ・フロー	-25	-26	▲1
現金・現金同等物に係る 換算差額等	-1	0	+1
現金・現金同等物の期末残高	156	204	+48

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にも有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画本部 CSR推進室 広報IR部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp

補足資料 案件リスト

工事受注(10億円規模以上)

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	北多摩二号水再生センター汚泥処理電気設備再構築その3	東京都	PE
	諏訪湖流域下水道豊田終末処理場電気設備工事その65	長野県	PE
3Q	小金井市清掃関連施設整備工事(資源物処理施設)	東京都	SS
	(債務)県南改築県単 第03-30-003-6-002号 オゾン接触池機械設備工事	茨城県	PE
	宇都宮市川田水再生センター特高受変電施設工事その3	栃木県	PE
	朝霞浄水場第1高度監視制御設備等改良工事	東京都	PE
	ちば野菊の里浄水場(第2期)自家発電設備工事	千葉県	PE
	03国補特下 第03-09-141-Z-001号 2号焼却炉機械設備改築工事	茨城県	PE

運転・維持管理 新規受託/業務開始

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	青木浄水場更新事業 [業務開始(既受託分)]	新潟県	SS

受注(海外)

	案件名	国	セグメント
1Q	プノンペン下水道整備計画	カンボジア王国	PE
	江蘇省 無錫市 錫澄浄水場向け オゾン発生システム(2期工事)	中国	PE
	福建省 福州市 飛鳳山浄水場向け オゾン発生システム	中国	PE
2Q	Bonnycraig浄水場向け セラミック膜	英国	PE
3Q	車載式セラミック膜ろ過装置	ラオス	PE